

テーマ：ベッドサイドでも冷めにくいタオル

■ 背景

- 外科手術後、あるいは認知症のため一人でお風呂に入れられないなど様々な理由でお風呂に入ることの出来ない患者さんがいる。そのような方の清潔性を保つため、お湯で絞ったタオルで体を拭く「清拭」を行っている。患者さんにとって清拭は血行促進、リラックス、清潔性の維持などの効果があるだけでなく、看護師にとっても皮膚の異常所見の発見などの効果がある
- 清拭には全身を拭く全身清拭と手足など身体の一部を拭く部分清拭がある。清拭には40～42度が適温とされるが、一回拭く毎におよそ1度下がる。全身清拭では拭く面積が広いそのため、体温よりタオル温度が下がらないように3回程度拭いたら50～55度のお湯で絞り直している



<出典：看護roo!>

■ 現状の対処法

- ベッドサイドで何度もお湯で絞り直す。
- 電子レンジで温め直し、持ち運んでくる。
- タオルウォーマーは重いため各病室まで移動させることは容易ではない。
- 冷めにくい清拭タオルがあれば看護師や患者さん自身の負担が削減できる。
- 患者さん1人に複数のタオルを使用する手もあるが、嵩張る、清拭後の洗濯時の手間が増えるといった課題がある。
- 最近ではデイスポタイプのタオルも発売されているが、綿タオルに比べ冷めやすい、ゴミが増えるといった課題もある。

機能アイデア例

- ベッドサイドに持っていけるもの（小型化）
- タオルの素材自体で保温性のあるもの



■ 市場性

タオルの替え時は一般的には洗濯30回程度と言われているが、病院での洗濯には殺菌剤も使用するため、タオルの寿命はもっと短い

タイジ社製ホットキャビは1台10万円程度で市販されているが、サイズはW450×D363×H322のため病室への携行は困難である

■ 看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>